

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100185		
法人名	有限会社 ラポール		
事業所名	グループホーム 神埼ひだまり		
所在地	神崎市神埼町竹4694-1		
自己評価作成日	平成 23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業理念である『笑顔と真心ですべては利用者の為に』を心がけ接しており、利用者が一人ひとりゆっくりと自分のペースで、日常生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には田んぼが広がり、菜の花や桜並木など季節の移ろいが日常の話題になるような、自然に恵まれた環境にある。建物の前には広い駐車場があるが、フェンスがないために訪問者が立ち寄りやすい開放的な雰囲気になっている。対面式の台所では野菜たっぷりのメニューが作られ、居間のソファでは入居者の方の会話が弾んでおり、穏やかで微笑ましい生活が感じられる。24時間対応してもらえる協力医との連携も安心でき、行事の際にはボランティアの参加もあり、事業理念を大切にしながら、入居者の方のペースを尊重した支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と真心ですべてはご利用者の為にを理念とし玄関に大きく掲示し、いつでも見れる状態にし、出勤時には必ず見るようにしている	大きく書かれた理念が玄関に掲示されていて、日常の気づきと合わせて振り返りをしたり、会議の際にも理念の確認をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供100番の家として日頃より小学生の通学を見守っている。集落内の散歩や行事での交流を行っている。できる限り区役などにも参加するようにしている。	運営推進会議を通じて、地域の人たちとのつながりができつつある。花などの差し入れもあり、地域の方からの相談が持ち込まれるような働きかけもされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で介護の相談所的な場所でありたいと考えており、地域の方より相談があれば、相談にのっているが事業所からの情報発信などは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見や要望を大切に、サービスの向上に取り組んでいる。	外部評価の報告もされていて、避難訓練についても多くの意見をもらい、改善策を考えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の会議に参加し、情報交換をおこなっており、困った際には相談やアドバイスを受ける様にしている。	運営推進会議には、市の2つの部署から参加があり、2ヶ月に1回開かれる市の集まりであるケアネット神埼にも参加する等、情報交換や相談をされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに沿った禁止の対象となる行為を理解しているが緊急やむを得ない場合はカンファレンスを行いご利用者、ご家族に書面にて説明し同意を得ており、早期解除に努めている。	現在、身体拘束が必要な方は居られない。玄関には鍵をかけず、外に出られる方にも付き添うことで対応をされている。身体拘束が必要な事態の時は、同意と記録、カンファレンスを丁寧に行い、早期解除を行う仕組みが作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、職員に資料等を回覧してもらいご利用者の尊厳を十分に考え、職員やご利用者の状態を観察し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を回覧してもらおうと共に施設内での勉強会を行い必要時には、対応出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分時間を取り、その後も不安や疑問点等あれば、その都度説明し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や事業所内に意見箱を設置している。また、毎月の支払いの際に意見等を聞き広域、国保連についての説明をする等、外部者へ述べる機会を設けている。	意見箱に意見が入っていたことはないが、家族から花づくりの希望、日記をつける支援をしてほしい等の要望を聞き、対応をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の意見、提案を聞くようにしている。必要であれば会議等を開催しているが、全部の意見が運営に反映できてはいない。	職員の意見が出しやすい雰囲気づくりを心掛けられていて、会議の場以外でも話し合いをされている。意見や提案も極力取り入れられるように努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況の把握に努めており、給与水準や職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修計画を作成し、できる限り研修に参加できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は勉強会や会議などに参加することにより交流し質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の声に耳を傾け、不安や心配に思う事を聞き出し対応し、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話は十分時間を取り、施設見学や来所出来ないご家族に対しても自宅等に訪問し不安や心配に思っている事等を聞きながら初期段階での関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話しを必要としている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を通して学事も多く手伝いをして頂いたり、率先し行われる方もおられ共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人をこれからどう支えて行くのか、入所前より話したり、行事等の場を提供したり、月1回の面会をお願いし、関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っていた美容院、病院がある場合は、ご本人、ご家族の意向を聞きその意向に沿えるように努めている。	近所に住む、入居者の知り合いが訪ねて来られたり、かかりつけ医、なじみの美容院の利用も支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子を見ながら職員が入居者の間に入るなどし、孤立させないように配慮している。入居者同士で助け合う姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関わりが必要な方に対しては、電話連絡や訪問し相談を聞き変わらない付き合いに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、ご本人が過ごしたいように生活して頂いている。また、今までの生活パターンや希望をご本人、ご家族に伺い、考慮し毎日を過ごして頂くよう努めている。	草取り、花の栽培等、生活歴を活かした暮らしを取り入れたり、思いが表出できない方には家族からの聴き取りをされている。今後は買い物の楽しみを多く取り入れていくことを考えられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に生活歴やこれまでの生活について、ご本人やご家族、担当ケアマネに伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた生活を送って頂くことで、身体の状況や能力の把握は必要不可欠であり、職員で統一したケアが出来るよう、日々気付いた事を申し送りノートに記載したり口頭で伝えたりし把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本意になるように介護計画を作成し、ご本人、ご家族の意見意向を聞き、カンファレンスにて職員の意見やアイデアを取り入れ作成している。	職員や家族の意見が反映された介護計画が作成されており、介護計画を簡潔にまとめた資料を回覧して、周知を図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果等をケース記録に記入し、カンファレンスを行い職員間での情報を共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では、消防署や近隣の方々に協力して頂いている。幼稚園や小学校等との交流を検討していたが実現できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医の希望があれば、ご本人、ご家族の希望に沿うように対応している。また、その医師とも連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。	24時間対応してもらえる協力医がおり、2週間に1度の往診の他、歯科・眼科の往診もあり、希望があれば、かかりつけ医についても対応をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護師である為、日頃の様子等の相談をしている。また、往診の医師と連携し適切な受診、看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、医師や病院のソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談をし早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または、終末期に向けた事業所の方針を決め早い段階からご本人、ご家族と話し合うようにしている。	終末期にも対応できることを家族に説明し、協力医やかかりつけ医と相談できるようにしている。指針もまとめられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、説明しており、また主治医に応急手当の方法を聞いたり、研修に参加し定期的にもマニュアルの確認もし対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき消防署、近隣の方々に参加して頂き行っている。また地震や水害時においても避難場所を明確にし伝えている。	建物や設備について、毎月、自主点検をして記録を残されている。避難訓練には近所の方の参加もあり、緊急時の避難場所として公民館を確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分配慮し羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉かけし行動している。	記録等は事務室内に保管し、相談事も場所に配慮して行っている。身だしなみや整容にも人格や自尊心を損なわないような支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるように言葉かけし、自己決定を基本とした対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、ご本人が過ごしたいように生活して頂いている。また、今までの生活パターンや希望をご本人、ご家族に伺い、考慮し毎日を過ごして頂くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室より定期的にボランティアで来て頂いているがカットのみであり、毛染めやパーマ希望があれば美容室を利用できる様に支援している。場合によっては、職員で毛染めや化粧の手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で配膳や下膳を行ってもらい、毎日ではないが料理の下ごしらえや味見をして頂いている。また、日常の会話の中で食べたい物や好きな物があれば献立に取り入れる様にしている。	職員が栄養バランスを考えて献立を作り、食材購入をされている。花見で弁当を出したり、外食の機会も設け、たこやきやコーヒー等もおやつとして提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし摂取量把握に努めている。全粥やキザミでも対応できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄、消毒をしており、口腔内や義歯に痛みや不具合があれば往診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、オムツを使用せずに排泄チェック表を使用し、個人の排泄パターンや状態に合わせてトイレ案内するようにしている。	自分でトイレに行ける方が多いが、うまくいかなかった時の対応も、さりげない配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く食材に使用したり、ヨーグルトや水分を多く提供している。適度な運動、腹部マッサージやホットパックを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに言葉かけをし、入浴したい時や時間にできる限り合わせて入浴して頂いている。	入浴したい時や、好みの時間を尊重して支援をされている。入りたくない方にも、無理に勧めず、気持ちを損なわないような声掛けで対応をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて昼夜逆転などがない限りは、昼夜共に休みたい時に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報等を利用し、薬についての副作用や用法、量について理解するように努めている。また、症状の変化が見られた際には、直ぐに主治医、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個人に合わせた役割を持って頂いている。また、好きなことや楽しみ事を好きな事を好きな時にできる限りして頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、外出されたり、ドライブや庭、集落への散歩に行かれています。	戸外の散歩やドライブ時の買い物、家族が付き添っての外出、外泊等の支援をされている。近くに商店がないが、今後は日用品等の買い物に行くことも考えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてご家族と相談し、少ない金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があれば、電話を使用して頂いたり、手紙を書かれる方はおられないが、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて頂けるよう、季節の花や飾り物を飾ったり生活感を重視している。音、光、温度などに十分配慮している。	室内には加湿器を備え、温度にも気を配られている。広間には畳を敷いてソファを置き、家庭のようにくつろげるよう雰囲気作りをされている。穏やかな対応で、落ち着いて過ごしてもらえるよう努力をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで仲よし同士で話したり、一人でソファでくつろいだり入居者間で空間、居場所ができている。室内は広くない為、共同空間と自室の行き来は皆さん簡単にできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく新しい物は購入せずに使い慣れた物や好きだった物を自由に持って来て頂いている。	居室には位牌が置かれていたり、テレビを楽しまれる方もおられ、それぞれ自由に家具調度を持ち込まれ、居心地良く工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレ、居室には名前や目印を付け自ら移動できるように努めている。		